



おかわてつお

大川 哲郎 さん

株式会社大川印刷 代表取締役社長

PROFILE

東海大学入学時に、4代目経営者の父親が急逝。大学卒業後、父の友人が経営する印刷会社で3年間修業を積んだ後、100年を超える歴史を持つ大川印刷に入社。2005年に社長に就任し、本業を通じた社会貢献を実践する「ソーシャルプリンティングカンパニー」という指針を打ち出して、CSRを軸とする事業展開で受賞等も多数。

CSRを事業戦略と捉え ソーシャルプリンティングカンパニーを 推進する経営者

東海大学入学直後に、100年を超える歴史を持つ大川印刷の4代目経営者だった父親が急逝。一時は大学中退も考えるが、主婦だった母親が経営を引き継ぎ、自身は大学卒業後に他社での修業を経て、25歳で大川印刷に入社。次期経営者として会社の改革に取り組み、ベテラン社員との葛藤に悩まされながらも、青年会議所などで経営の勉強をして試行錯誤を重ねる。2005年の社長就任後は、歴史ある企業での自らの使命と向き合い、社会課題を解決する「ソーシャルプリンティングカンパニー」というコンセプトを打ち出す。CSRをベースとする経営で社員を巻き込み、数々の表彰を受けるなど、印刷業の新しいあり方を追求する経営者に話を聞いた。

地域や社会に必要とされる企業になろう

—現在は主要産業の1つである印刷業ですが、貴社は100年以上の歴史をお持ちだそうですね。

当社は1881年に創業し、135年の歴史を持つ会社です。明治に入ってからすぐの開国間もない時期に、神奈川・横浜で医薬品の貿易商を始めた創業者の息子が、当時では珍しい印刷業を目指したのです。その頃は貿易輸出品としてシルクが主要品で、生糸にまつわる印刷物や輸入医薬品のラベルを印刷していました。

彼は貿易商時代に輸入医薬品を見て、そのラベルの美しさにひかれ、有望な産業になると思って20代で印刷業をスタートしたそうです。私は6代目の経営者ですが、製薬会社との仕事である医薬品の効能書きやラベル印刷は、いまま当社の主要事業です。この地で古く創業し、歴史が長いため、地元の老舗との取引は多いですね。

当社は環境対策にも力を入れていて、1990年代から環境問題に取り組み始めました。当時は変わり者扱いされましたが（笑）。個人的にも、11年前からハイブリッドカーに乗り始めたのですが、環境に優しい製品づくりは、自然だけでなく人にも優しくあることが必要で、当社は1990年代後半からユニバーサルデザインを手がけ始めました。

—あらゆることに一足先に取り組むことが、貴社の伝統のようですね。印刷業界の現状についてお聞かせください。

印刷業界の現状は厳しく、廃業・倒産する企業も多く見られます。デジタル化の波を受けて紙媒体をやめ、Webに移行する流れが顕著です。このように、電子書籍やデジタルサイネージが増える一方で、紙媒体もなくなりはないものの、着実に減っている環境下で、どのような策をとるかが、ここ十数年の主要なテーマと言えます。

さまざまなやり方が考えられますが、ワンストップサービスの方向で、製品の印刷だけでなく広報宣伝など、印刷にかかわるすべてを手がける企業もあります。一例として、コンビニエンスストア

に対しては、販売展開する新製品のPOPやポスター、景品などを各地に設置する際、すべてを1社でまかなえるように提案するといったものです。

当社の取組みとしては、扱うデータにおいてはワンソースマルチユース——つまり1つのデータから多様な展開を考えていきます。そのような取組みを強化しつつ、ソリューションプロバイダーとして、顧客の課題解決型ビジネスの展開を目指し、新しい方向性として、11年前に「ソーシャルプリンティングカンパニー」というビジョンを掲げました。

—厳しい業界環境の中、積極的に変化を求めていらっしゃるんですね。CSRにも積極的に取り組みました。

最初は青年会議所で学ぶ中で、社会起業家の調査として、ソーシャルビジネスで起業する方々に勉強させていただき、2003年頃から企業の社会貢献（CSR）に興味を持つようになりました。企業が存続していくために、経営の理念や事業の意義を従業員たちにわかりやすく伝えるには、どのようにするのが良いかを考え抜いたのです。

そこで行き着いたのが、当り前のことを徹底する「凡事徹底」で、私は「地域や社会に必要とされる企業になろう」と言い続けてきました。かつて顧客満足（CS）経営が流行った頃には、私もそれを学んで実行しようとしたのですが、なかなかうまくいきませんでした。当時は30代前半でしたから、15年ほど前のことです。

その後、従業員満足（ES）経営が言われ始めますが、当初はあまりよく理解できなかった記憶があります。まずはお客様を満足させなければ、すべてがうまくいかないだろうと思ったのです。しかし、いろいろと学んでCSRやソーシャルビジネスの流れが見えてくるにつれて、CSの前にESが重要だと考えるようになりました。

そして、「では、自社はどうしていこうか？」と悩んだ末に、「地域や社会に必要とされる企業